

「安上がりのサービス」ではなく、「専門的サービスを土台にプラスαを」 改悪続く介護保険制度の今後について新潟市社保協が講演会

新潟市で26日、介護保険学習講演会（主催、新潟市社会保障推進協議会）があり、参加してきました。講師は大阪社会保障推進協議会の日下部雅喜さんです。日下部さんの講演を聴くのは2回目です。今回は「介護保険制度の行方と私たちへの影響」と題して、新総合事業と今後の介護保険改革の動きについて話していただきました。

講演では、2015年から大きく変わり始めた介護保険について説明した後、新潟市のことを中心にしなが、総合事業実施をめぐる課題・争点について丁寧に解説しました。安上がりのサービスへの置き換えをねらう政府に対して「専門的サービスを土台にプラスアルファ

を」という日下部さんが争点、大事なこととして掲げたのは①現行水準の報酬額保障か報酬引き下げか、②緩和型サービスA型を中心にするか、③要介護認定申請権を侵害させない、④自立支援に名を借りた「卒業」・利用抑制をさせない、⑤「上限額」を口実とした削減をさせない、の5つでした。

このなかで基準緩和A中心の取組をして、厚労省の方針を率先して実行している上越市の事例が紹介されましたが、今回の講演では、同じ総合事業に取り組みにしても形式的に移行して、現行サービスの水準を維持し、報酬も下げないで頑張っている自治体があることなどが明らかにされました。

日下部さんは、「『介護保険は詐欺だ!』と告発した公務員」という本を書かれています。講演の最後に、介護保険創設時に厚生労働省老健局長だった堤修三氏が「団塊世代にとって介護保険は『国家的詐欺』になりつつあるように思えてならない」とのべておられることを紹介されていました。とても参考になる講演でした。

国宝太刀・山鳥毛の説明会続く

市教委による「国宝の太刀 山鳥毛と上杉謙信公・景勝公」についての説明会が続いています。26日、吉川多目的集会所で行われた会に参加してきました。説明にあたったのは野澤教育次長と中西文化行政課長です。

このうち中西課長は、山鳥毛の魅力として、①豪壮な姿、②豪華で美しい刃文などをあげていました。刀を短くすることが多かったなかで長い刀をそのままにしていた「うぶ」など謙信公好みの刀の特徴のことや戦国時代の「贈答」などについての説明は興味深いものでした。



【コウゾリナ】キク科の越年草です。漢字で「顔荊菜」と書きます。黄色い花なので、タンポポの遅咲きかと思ってみたら、そうではなく、この花でした。冬を前にして必死になって花を守っています。



高田のYさんから縦50cm、横70cmもあるジャンボ絵手紙が届きました。鶴首カボチャとコメント、読めるでしょうか。

中西課長の話の中では、刀以外のことも出ました。約400年前の「越後頸城郡絵図」で吉川区にある町田がどういう集落であったかとか、吉川流域の山直海、下町、吉河、赤沢などに上杉軍団の「専門の戦闘部隊」がいたことなども語られました。「吉河」ってどこの集落なのかなど、知りたいことがいくつもありました。質問者は一人だけ、「いまの市政の中で国宝太刀山鳥毛を購入すべきか否か」などの議論は残念ながら聞けませんでした。

堤修三氏「介護保険は『国家的詐欺』」

介護保険創設時の厚労省老健局長。「介護保険の生みの親」

- 「保険料を納めた人には平等に給付を行うのが保険制度の大前提」。
- しかし「2015年改定や財務省の給付抑制路線の提案では、この前提が崩れつつあると危惧している」
- さらに要支援者の訪問介護などを市町村の事業に移し替えたり、補給給付の資産要件を導入するなどは、保険制度からいけば全くの筋違いで、「**団塊世代にとって介護保険は『国家的詐欺』**となりつつあるように思えてならない」

シルバー産業新聞(2015年11月10日)

はしづめ法一の活動レポート

No.1785 2016.12.4

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第四三三回

「柿泥棒」

油断をしていなかったかと言えようになりません。九月下旬に食べられるようになり、毎日のように、食べたい数だけもぎ続けていても、とられる心配はこの間、まったくありませんでした。

柿の木は私の地元事務所のすぐそばにあります。樹齢は十数年といたるところでしようか。高さは三メートルくらいしかなく、木としては小さな方です。この木は母が近所の人と一緒に注文したのですが、一年おきにたくさんの実をつけています。

今年はこの柿の当たり年で、木の枝が折れるのではないかと心配になるほどたくさんの実をならせました。数えはしなかったのですが、おそらく三〇〇個近くはあったと思います。

柿が美味しさを増すようになってからは、休むことなくもぎ続けました。母から、「柿の種が黒くならんとうんめくならん」と言われていたので、最初は少なめにしてみました。一回にもぐ柿の数も増えました。

柿の木に異変を感じたのは十一月の半ば過ぎになってからです。木の下の方の枝になつていた実の一つが何者かに食べられていたのです。一個まるごと食べられたのではなく、半分くらい残ってぶら下がっていました。きれいにすべて食べられていればおそらく気づかなかつたでしょう。

私は最初、鳥がつついて食べたものだと思いましたが、鳥がつかないところが、ある日の夜のこと、柿が食べたくなくて、薄暗い中を柿の木のところまで行ったところ、ガサガサという音を立てて、笹の生い茂ったなかへある動物が逃げ込んだのです。タヌキなら何度も出合っているのですぐにわかるのですが、逃げ方はタヌキとは違ってスプードルがありました。この時、ひよつとすると柿を食べたのはハクビシンかも知れない、と思いました。

ハクビシンは甘い果物が大好物と聞いています。わが家の柿の木は枝が垂れ下がって、地上三〇センチくらいのところまで柿はなつていましたから、ハクビシンが取るうと思えば簡単に取れます。「犯人」がハクビシンである確率が高いと思いました。ただ、ハクビシンとはその後、出合うことがありませんでした。

数日後、今度は柿の木の上方の実が少なくなっていることに気づきました。木の高いところには縦横八センチから一〇センチほどの四角い大きい柿がいくつも実つていました。下から見ると、太陽の光をたつぷり浴びて、とても美味しそうに見えます。そろそろ一番のもぎどきかな、と思つていたところでおぼろおぼろと見えました。

ハクビシンはこんなにも高いところに登るのか。最初はそう思つていたのですが、もし登つて食べたとしたら、枝を一本くらいは折つていても不思議はありません。でも、それらしき跡はまったくありませんでした。

さて、そうになると、食べたのは誰だろう。そう思つていたら、近くの杉の木の高いつとでカラスが鳴いています。「なんだ、こいつか、食べたのは」と思っていました。私は、「アホウ、アホウ」と言われているような気がしてなりません。でも、カラスがこの柿の木にとまって実を食べている姿も見たわけではないのです。

母が植えたこの柿の実を食べたのは何者か。それはいまでも分かりません。ただ、ハッキリしているのは、「犯人」はこの柿の一番美味しい時期を知つていて、そのときにやってきて食べていったということとです。それも全部食べたわけではなく、食べても遠慮がちに食べ、あとは「ほしい方、どうぞ」といった感じで残していったのです。なかなかやりますねえ、「柿泥棒」さんよ。

高田警女唄の魅力を引き継ぎ、楽しさいっぱい…市民創作劇「かわいがらんせ」

この間の日曜日は午後3時から高田警女唄芝居でした。大ホールに入ったら、文化会館のSさんにばったり会いました。Sさんは「みんな頑張りましたよ。今回は唄がいっぱ

いです」と教えてくれたのですが、その通りでしたね。

今回は改めて警女唄の魅力を味わい、感じました。時代の流れのなかで、その時代ならではのものを採り入れて、より楽しく、大衆的なものへと発展していくのですね、警女唄は。「美人で賢い娘だと 周りの者が羨めば 娘はやがて恋をして 早くもお腹が張り出して」とくりゃ、みんな笑うこてね。津軽三味線の源流は高田の警女さんの三味線だということを初めて知りましたが、高田警女唄を大事に守り、発展させられればいいなと思いました。フェイスブックなどで交流のある小竹さん一家の三味線、初めて聴きました。とてもいい響きで、いまも私の耳に残っています。

劇に登場した人たちの演技にも目を見張りました。「林」のばちやが腰を曲げ

て舞台に出てきただけでも笑いが起きる。すごいですね。「東」の旦那も「みつ」のじいちゃんなどもそう、存在感たつぷりの演技でした。真貴ちゃん、どこに出るのかと思つたら、いきなり、「高田警女の案内人」で出てくるんだもの、びっくりしました。

この日の芝居には市内外から大勢の人たちが駆けつけました。高田警女唄芝居は私たちの住んでいるところの宝です。ますます発展して欲しいですね。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月23日(水)	11月30日(水)
上越南消防署	0.067	0.040
上越北消防署	0.057	0.057
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.057	0.043
頸南消防署	0.060	0.047
東頸消防署	0.047	0.047
高士分遣所	0.073	0.043
名立分遣所	0.057	0.050

